

公益財団法人 アジア保健研修所

2018年度事業報告書

(第7期 2018年4月1日～2019年3月31日)

はじめに	2
A. 研修事業	
1. 国際研修	2
2. 研修生へのフォローアップ事業	2
1) 英文ニュースレターの発行	
2) リユニオンセミナー（国別の元研修生会合）の開催	
3) 国際ワークショップ	
4) 次世代育成事業の企画立案	
5) その他のフォローアップ	
3. 地域保健推進のための協働事業	3
1) フィリピン	
2) フィリピン	
3) パキスタン	
B. 国内活動	
1. アジア理解のためのプログラム	4
1) オープンハウス	
2) 初めて始めて講座	
3) AHI 講座	
4) スタディツアー	
2. 情報および体験機会の提供	5
1) 情報誌「アジアの健康」の発行	
2) 情報誌「アジアの子ども」の発行	
3) ホームページ運営	
4) ボランティア・インターンの受け入れ	
3. 他団体との協力	6
1) 他団体への講師派遣	
2) 団体・ネットワークへの加盟	
3) 他団体との協力による政策提言活動	
C. 法人運営	
1. 理事会・評議員会	6
2. 賛助会員募集・募金活動	7

はじめに

2018年度の事業を概観するにあたり、下記2点を今後への課題としてあげたい。

◆研修関係 「帰国後」の支援

2000年の創立20周年記念募金を原資に、元研修生との協働事業を開始した。原則、元研修生有志による企画・運営で行うリユニオン会合や国際ワークショップ、および特定地域で行う事業への支援・協働である。前者は、研修会であるが、後者については、活動地域の状況、協働団体の運営など種々の要因が関係する。財政困難になる事態が生じ、事業の継続が難しくなったり、先方からの連絡不足など、当該事業の難しさを感じてきた。ふさわしい「帰国後」の働きかけや支援を引き続き検討していきたい。

2015年の創立35周年記念募金では、「次世代育成」事業を掲げ、協力を得た。NGO内においても地域づくりにおいても、いずれの研修生も課題としているものである。研修生のニーズに基づき、2019年度以降事業の具体化をめざす。

◆支援者との関係強化

高齢化に伴う支援者の著しい減少の一方、新規の支援者獲得が進まず、発信力、訴求力不足を感じてきた。

2017年度プロボノの協力を得て検討を行った。その中で現在の人的資源を最大に生かすことがふさわしいという方向が出された。これを受けて、支援者獲得の方策を具体化、実施した。特に、長年支援者への感謝の集いでは、各参加者との関係を強め、次世代へつなげていただく素地を作ることに努めた。また研修の成果を見える形で提示する重要性も語られた。これについては、事業の社会的インパクトを数値化する取り組みを開始した。結果をまとめ、次年度以降効果的な広報につなげたい。

A. 研修事業

1. 国際研修

期間：2018年8月26日～10月8日

場所：アジア保健研修所（AHI）

参加者：保健・開発分野の地域活動に従事するNGO職員、住民組織のリーダー・行政職員等アジア8ヶ国から計11名（男性5名、女性6名）

国別内訳：バングラデシュ1、カンボジア1、インド2、キルギス1、ネパール3、パキスタン1、フィリピン1、スリランカ1）

＊「地方分権下における住民参加による保健活動の推進」をテーマに、参加者の活動経験と課題意識に基づく研修を実施した。下記の内容を通して、各参加者が自分の地域、組織の課題解決に向けた方策を模索し、帰国後の活動計画を立案した。

＊地域住民の健康問題の原因、保健政策の現状と課題、グローバル化の影響など、関連した諸状況を分析的にとらえ、地域住民が主体となって課題の解決を図るために、NGOにはどのような役割が必要かを討論した。特に、住民組織の能力形成、地方行政や他の関係機関との連携の構築や政策提言の方策を考えた。

＊日本における市民活動や市民と行政の協働を具体的な事例から学ぶため、日進市、名古屋市、長野県阿智村を訪問し、活動見学や関係者との意見交換を行った。

＊広島市を訪問し、平和教育や平和活動の実践を知ることにより、平和を創り出すために地域保健活動が果たし得る役割について考えた。

尚、スリランカの男性1名が研修中盤に行方不明となった。関係当局に届け出を行うと同時に、所属団体と情報共有を行い、対応を協議した。同様の事態が起こらないよう一層努力する。

2. 研修生へのフォローアップ事業

1) 英文ニュースレターの発行

元研修生や国内外の関係団体との関係継続および経験共有の媒体として、下記のテーマで、計 2 回、各 1,000 部発行した。

2018 年 7 月 前号に引き続き、元研修生の次世代育成のための活動事例を紹介。

2019 年 2 月 持続可能な開発に向けた元研修生の取り組みを紹介。

2) リユニオンセミナー（国・地域別の研修生会合）の開催

当事業は、元研修生間の新たな経験交流およびネットワーク構築の機会として、元研修生有志による発案を受け、実施するものである。従来、国別で行ってきたが、今年度は、タイ政府系機関の全国保健事務局（NHCO）を協力団体とし、メコン河流域国の元研修生を対象に、タイにおいて開催した。後述の国際ワークショップに向けた準備も併せて行った。

期間：2018 年 12 月 10 日～14 日

テーマ：「すべての政策に健康の視点を」に向けた、タイの多分野連携の取り組みから学ぶ

場所：バンコク

参加者：元研修生 11 名（タイ 5 名、カンボジア 4 名、ベトナム 1 名、ネパール 1 名）

職員 1 名が出張した。

3) 国際ワークショップ

当事業は、国際研修と異なり、元研修生の所属団体の活動地を会場として行うものである。また、各国の元研修生が、ともに活動する住民リーダーや行政職員と一組となって参加する。今年度は、タイの全国保健事務局（NHCO）との共催とし、タイで開催した。参加者のうち半数は AHI の元研修生と関係者、残る半数は共催団体のネットワー

クを通しての参加であった。

期間：2019 年 3 月 25 日～3 月 29 日

テーマ：「すべての政策に保健の視点を」に向けた、タイの地方における多分野連携の事例から学ぶ

場所：バンコク近郊 チャチューンサオ県

参加者：合計 26 名

- NGO12 名、住民組織 5 名 行政（地方・中央）7 名 学術 2 名

- うち、AHI 元研修生・関係者 13 名（バングラデシュ 2 名、モンゴル 3 名、パキスタン 2 名 スリランカ 4 名、タイ 2 名）

職員 2 名が出張した。

4) 次世代育成事業の企画立案

当事業は創立 35 周年記念「アジアの次世代育成募金」を原資に、2025 年までに行うものである。将来の地域づくりを担う人材を育成することは、国・地域を問わずいずれの元研修生にとっても重要な課題である。

今年度は、前年度に元研修生から募った活動事例を引き続き英文ニュースレターに掲載し、取り組みの状況や課題の理解に努めた。さらに、具体的な企画立案にむけ、職員出張時に元研修生から現状、ニーズや提案の聞き取りを行った。

5) その他のフォローアップ

研修参加後も AHI および他の研修生との関係が継続されるよう、下記を行った。

*職員が寄せ書きした誕生日カード、年末のグリーティングカードの送付。

*ホームページ上の「元研修生便覧」（元研修生が他の元研修生を活動領域や国別などで検索できる機能）の活用を促した。

*フェイスブック上で元研修生のグループを作成。情報交流を促した。

3. 地域保健推進のための協働事業

当事業は、元研修生による特定地域での活動に協力するものである。

1) ヘルシーライフスタイル推進

元研修生有志 ANAK-NC との協働

(フィリピン)

ミンダナオ島北ダバオ州ニューコレリア町で、元研修生の団体 ANAK-NC による健康増進のための活動を支援した。これまで行ってきた健康祭りの開催や生活習慣病の啓発活動は、ANAK-NC と町行政との連携によって自立的に進められた。

ANAK-NC の組織強化および当該事業の方向性を固めるために、向こう3年間の事業計画作成をサポートした。2018年11月職員出張時に協議を持ち、事業目標および重点課題について概ね合意した。

2) 保健ボランティア育成と代替医療の推進

元研修生の所属団体 INAM との協働

(フィリピン)

2012年から、INAM がルソン島中部のリサール州タナイ町及びケソン州ジェネラルナカール町で進める保健ボランティアの育成と行政との連携推進に協力してきたが、INAM の財政難に伴う規模縮小により、両町における活動の見直しをせまられた。

その結果、地理的にアクセスが難しいジェネラルナカール町での活動の継続を断念した。一方タナイ町では現在活動中の保健ボランティアへの今後の支援のあり方を探るために、2018年11月に職員が出張し、現地を訪問した。その後協議を継続中である。

3) 小規模 NGO の若手スタッフ育成

元研修生所属団体 エイズ啓発協会 AIDS

Awareness Society (AAS) との協働 (パキスタン)

地方の小規模 NGO のスタッフを対象としたリーダーシップ育成事業を支援した。開始から5年経ち、現地運営メンバーも経験を積んだことから、今年度は研修会の開催にあたり、AHI から職員を派遣しなかった。以前この研修に参加した人たちが、運営や訪問研修の受け入れ、講師として協力した。今年度の研修会の開催は次の通り。

期間：2018年4月13日～4月22日

場所：パキスタン東部ラホール市

参加者：20名

また、参加者のフォローアップと運営体制強化に向け、本研修および国際研修の参加者によるグループ (LIFE) が発足した。

B. 国内活動

1. アジア理解のためのプログラム

1) オープンハウス

気軽に参加できる年に一度の恒例のイベントとして、2018年10月8日(祝・月)に、AHI を会場に開催した。企画・運営の中核をボランティアによる実行委員会が担った。6月以降メンバーを募り、25名ほどが月2～4回会合を持ち、準備を進めた。実行委員が当法人の活動への理解を深めるよう、情報や機会の提供に努めた。

当日の来場者は約650名。25の外部団体・グループの参加・出展があり、また約120名のボランティアの協力を得た。

2) 初めて始めて講座

国際協力、あるいはボランティアなどに関心のある新規の人を対象に、当団体の理念や活動を紹

介するための講座を毎月1回、第4土曜日に開催した。参加者総数33名。

この講座への参加後、ボランティア活動やプログラムへの参加につながるよう、同講座において参加者同士の交流に努め、また他のプログラムとの連携を図った。

3) AHI 講座

2018年度は、以下の3回を開催した。

① 2018年4月21日(土)

「ゾウとポテチとわたし」於 AHI 18名参加。
日本の私たちの生活とアジアのつながりに気づき、考えるワークショップを外部からファシリテーター(AHI会員)を招き開催。

② 2018年6月30日(土)

「2030年未来への旅!SDGsゲーム体験会」於日進市北部福祉会館 36名参加。
ゲームを通して、持続可能な開発目標(SDGs)が生まれた背景や、地球の持続可能性のために一人ひとりが行動することが重要であることへの理解を促した。

③ 2019年3月9日(土)

「映画『あまねき^{しらべ}旋律』上映会 in 日進」
於日進市にぎわい交流館 56名参加。
インド・ナガランド州の人たちの文化・生活を、映画と日本に住むナガランド出身の人の話を通して学んだ。
上記に加え、下記の講座を開催した。

*2018年4月11日(水)および14日(土)
スリランカの元研修生による、紅茶産業を支えてきたタミルの人びとの歴史と現状についての講演会を計3ヶ所で行った。

*2019年1月26日(土)「世界貿易が私たちの健康を脅かすー世界のNGOが結集した5日間」
2018年11月にバングラデシュで行われた世界民衆保健会議」に出席した元職員の宇井志緒利さん

による報告会を行った。参加者23名。

*2019年2月27日(水)モンゴルの障害者「政府の取り組みと障害者団体との連携-CBID2019を控え」JICAモンゴルの障害者社会参画促進事業の関係者が現地の状況や支援事業に関する報告を実施した。参加者24名。

4) スタディツアー

アジアの草の根の人びとへの共感と開発活動への理解を深めるために、元研修生の活動地域を訪問するツアーを行った。スリランカの元研修生及び所属団体の協力を得て、同国北西部の農村地域、中部山岳部の茶農園地域、および西部の沿岸部を訪ね、多民族のスリランカの状況と社会課題に取り組むNGOの活動に触れた。

実施期間:2018年3月21日~31日

参加者:計10名。内訳:高校生3名、大学生3名(内1名はインターンとして準備・運営を担った)、および一般4名。同行職員1名。

2. 情報および体験機会の提供

1) 情報誌『アジアの健康』の発行

アジア各地の状況、地域の課題、NGOや住民による取り組みを伝えることをねらいとして、計5回、各回約3,500部(A4サイズ12ページ立て)を発行した。うち1回は読みやすさをねらいとし簡便な形(A4サイズ1枚両面)とした。

元研修生の研修後の取り組みや現地の具体的な情報、またボランティアの紹介など、読者が支援の手ごたえを感じ、身近に感じられる内容とすることに努めた。

2) 情報誌『アジアの子ども』の発行

日本の子ども(主対象:小学校高学年以上)向けに、現地での地域開発の活動も織り交ぜて、同

時代を生きるアジア各地の子どもたちの日常をわかりやすく伝えることをねらいとした。

ベトナムおよびタイの元研修生の協力により、2018年8月に第66号、2019年2月に第67号を各4,000部発行した。

3) ホームページ運営

ホームページやブログを活用し、活動内容をわかりやすく、タイムリーに更新することに努め、同時にSNSなど他の媒体との連携に努めた。

また、2017年度末にオンラインでの単発の寄付にも対応できるようにシステムを変更し、支援のための利便性を高めた。

4) ボランティア/インターン受入れ

国際研修の期間を中心に、年間を通じて積極的にボランティアやインターンを受け入れ、NGO活動に触れる機会を提供した。事務作業、国際研修補助、国内プログラム実施協力など多様な業務がボランティア・インターンによって担われた。

インターンは、大学生・専門学校生が5名（うち1名は中国人留学生）。

また、名古屋経済大学市邨高校の生徒の職場体験を7月に、日進市内の愛知県立高校の新任教員研修を8月に受け容れた。

3. 他団体との協力

1) 他団体への講師派遣

要請に応じて、下記のように職員や関係者を講師として派遣し、アジアの状況を伝えた。

・学校関係（中学～大学）	13件
・キリスト教会	2件
・諸団体	9件
・ブース出展・アピール等	12件
・グループでの来館受け入れ	4件

上記以外に、下記2つの事業も行った。

* 「小学校で行う国際理解講座」

日進市内においては市との協働事業として日進市立の小学校計7校で実施した。また、市外の小学校についても計5校で実施した。

* 国際研修参加者を講師とした講演会

国際研修終了後に、フィリピンからの研修生を講師として現地のNGO活動を伝える講演会を2018年10月9日～10月13日 愛知県内外計6ヶ所（学校3ヶ所、その他3ヶ所）で行った。自身も20歳台である講師の、若者育成に取り組む姿が共感を呼んだ。

2) 団体・ネットワークへの加盟

下記の諸団体に加わり、関連分野の活動を進める。＜ ＞内は職員の各団体における現役職名。

- ・名古屋NGOセンター＜理事＞
- ・名古屋キリスト教協議会＜書記＞
- ・障害分野NGO連絡会＜幹事＞
- ・日比NGOネットワーク
- ・日本キリスト教協議会
- ・カンボジア市民フォーラム＜世話人＞
- ・（特活）開発教育協会
- ・あじさい会（日進市内の事業所交流会）
＜理事＞

この他、日進市及び近隣地域での市民グループ「にしん平和を考える会」及び「次世代の子どもたちの“いのち・くらし・エネルギー”を考える会」の活動に加わっている。また、職員が次の役職を務める。

- ・社会福祉法人さふらん会＜評議員＞
- ・名古屋YWCA＜評議員＞
- ・東海市民社会ネットワーク＜幹事＞

3) 他団体との協力による政策提言活動

加盟団体の一員として、関連分野において関係機関等への政策提言活動を行う。

a) 名古屋 NGO センター

東海地域の NGO ネットワークである同センターの加盟団体として、国際協力機構（JICA）や外務省などへの政策提言活動に関わった。また、「NGO スタッフになりたい人のためのコミュニティカレッジ」などの同センターの事業も担い、NGO・NPO の人材育成にも貢献した。

b) カンボジア市民フォーラム

同フォーラムの加盟団体として、カンボジアの開発や保健政策に関して、援助国・国際援助機関に対する提言活動に関わった。特に今年度は、急速に強まったカンボジア政府による市民社会への締め付けに焦点があてられた。

C. 法人運営

1. 理事会・評議員会

理事会を 5 回、評議員会を 2 回開催した。2018 年度末現在、理事 10 名、監事 3 名、評議員 11 名である（監事追加 1 名を 3 月末の評議員会で決議）。開催日と主な議題は下記の通り。

数年来の懸案であった会館のバリアフリー化改修を 2018 年 4 月に着手し、8 月初旬に竣工した。

* 理事会

2018 年 6 月 12 日

－2017 年度事業報告案・決算案の件
－国内・海外出張旅費規程案および海外安全対策規程の件

2018 年 8 月 7 日

－代表理事および業務執行理事選出の件

2018 年 11 月 7 日

－国際研修報告および行方不明の研修生をめぐる対応の件

2019 年 2 月 21 日

－職員期末手当の件

2019 年 3 月 14 日

－2019 年度事業計画案および予算案の件

* 評議員会

2018 年 6 月 29 日

－2018 年度事業報告案、決算案の件
－評議員および監事の辞任・選任、ならびに理事の選任の件

2019 年 3 月 29 日

－2019 年度事業計画案・予算案の件
－定款変更の件
－監事選任の件

2. 賛助会員募集・募金活動

賛助会員現勢（2019 年 3 月 31 日現在）

賛助会員総数 2,595 名

＜うちひとつかみサポーター 201 名＞

寄付者総数 583 名

* 下記は、前年度末現在

賛助会員数 2,711 名

＜うち、ひとつかみサポーター 177 名＞

寄付者総数 684 名

● 支援者・資金獲得のための働きかけ

1) 長年支援者への感謝の集い

2017 年度にプロボノチームと資金獲得のための方策を種々検討し、既存の支援者が手ごたえを具体的に感じられる機会を「既存の支援者から次の世代へ」という観点が強く出された。これを受け、10 月 8 日開催のオープンハウスにおける「長年支援者への感謝のひととき」を開催した。草創期（～1983 年）から現在まで支援を継続して下さっている約 420 名を対象に呼びかけ、39 名の参加

を得た。家族と一緒に参加された方、遠方からの参加者もあり、あらためて長年支援してきた団体を身近に感じていただく機会となった。

2) 支援のお願いの送付

「ひとつかみサポーター募集」の新パンフレットを作成し、協力を呼び掛けた。

新規の支援者を得るために、ボランティア活動やプログラムに参加した人たちにあて、メール配信などを通して関係を継続し、2018年12月にボランティア感謝会へのお誘いととも、「ひとつかみサポーター」のお願いを約520通送付した。ここからの協力者は9件であった。

前年度ボランティア活動やプログラムに参加した人たち約200名あてにクリスマス・お正月募金のお願いを送付し、6件の協力が得られた。

新社会人の人たち（ボランティア・インターン 当時は大学生）7名に対して支援の呼びかけを行い、1名の協力を得た。

3) 古本・切手・ハガキでの寄付「ギフトリレー」

ブックオフコーポレーション（株）から10%の上乗せとともに買取の代金分が寄付されるしくみであり、当法人も利用している。古本のほか、未使用・書き損じハガキ、未使用切手も随時受け付けた。特に2018年度は新しい試みとして、会報2月号封筒の裏面にギフトリレー用の封筒を印刷し、利便性を高めた。結果、2018年度の合計金額は439,982円と従来を大きく上回った。

4) 「想いを伝える遺言書講座」開催

遺贈への関心の高まり、一定の社会的認知も生まれていることを受け、元職員の協力を得て実施した。2018年度の開催は、計2回。別途要望に応じて個別相談会も開催した。のべ22組の参加。

5) 事業の成果の「見える化」のための取り組み

事業の社会的な意義を数字で表すSROI (Social Return of Investment) という手法を用いて、国際研修参加者、ホストファミリーと日曜日のガイドボランティア、およびインターンの三者に対してアンケートを行い、その3つの方面から国際研修の成果・社会的インパクトを把握する取り組みを行った。2018年7月以降、外部講師によるセッションを計7回持ち、作業を進めた。結果をまとめ、広報、資金獲得に活用する予定である。

●会費・寄付金実績

■会費収入実績 計 13,135,344 円

1. 従来年会費制度による 計 10,517,344 円

a) 新規会費 計 157,000 円

b) 継続会費 計 10,360,344 円

<★継続率 約74%>

2. ひとつかみサポーター 計 2,618,000 円

a) 新規 計 134,000 円

b) 継続 計 2,484,000 円

■寄付金収入実績 計 29,239,080 円

1. クリスマス・お正月募金 14,636,584 円

期間 2018年12月1日～2019年2月28日

協力件数 1,398 件

(目標 17,000,000 円 達成率 86%)

2. 一般寄付 14,602,496 円